

最後に、今回厚生労働省からでているこのガイドライン(厚生労働省のHP「放課後児童クラブガイドラインについて」で見ることができます)は、市長に対して通知されたものであり、学童保育事業の運営が一層充実するよう、関係者に周知するように書かれている。是非とも市長のリーダーシップによって、ハード面ソフト面ともに、この事業が前進するよう要望した。

学童保育事業のその他の課題 今回取り上げた問題の他にも学童保育は多くの問題をかかえている。川越市は他市に先駆けてこの事業に取り組んできたようですが、現在は国の示す基準に沿えない状態が続いている。定員オーバーで芋の子を洗うような狭さ、男女一緒のトイレ、足りない机やロッカー。その一方、保育料は20年前から変わらず3000円。

現在学童保育の希望者は少子化にもかかわらず増えているそうです。私も、本来子どもは家庭で親が見るべきだと思っていますし、子どもにとどめその方が良いと考えています。それでも、実際はなかなかそうはいかない事情もあり、こういった施設が置かれているのだと思います。他の市町村では学童保育の民営化、外部委託などの運営方法を探るところもあります。川越市でも、学童保育事業をもう一度根本から見直す時期に来ていると感じます。皆さんはどう思われますか?

フッ素洗口の実施について

・・・虫歯ゼロをめざして!



フッ素は虫歯の予防に効果的だということで、最近は多くの歯磨き粉もフッ素配合と書かれています。フッ素洗口とは極少量のフッ化物でうがいをする予防法ですが、今回の一般質問では、小学校でのフッ素洗口の実施を提案しました。(以下、要約Q&A Q 川口、A 教育長、学校教育部長、教育総務部長 他)

- Q. フッ素洗口は全国のあちらこちらの自治体で行われている事業であり、厚生労働省、歯科医師会、WHOでも推奨している。川越市でも総合保健センターで行われている歯ピピーフェスティバルでは、主に幼児を対象にフッ素洗口を行っていますが、歯磨き指導と合わせてこれを取り入れた理由はなにか?
- A. フッ素洗口は歯を強くすること、効果が実証されていること、幼いうちから行うことで予防の意識が芽生える等の理由から実施している。
- Q. 調べてみるとフッ素洗口は、幼児から中学生くらいまで継続して行うのが効果的のようだが、その継続性の効果についてどのように考えているのか。また、以前に議会での一般質問を受けて検討されたようだが、どのように検討されたのか?
- A. 継続性については、おっしゃるように継続的な実施が効果的だと認識している。H12に検討を始めたが、薬品の保管・教員の手間・時間割上厳しい等の理由から小学校での実施は難しいと判断し、現在検討はしていない。

要望しました

★ たしかに薬品の保管・教員の手間の問題はあるかもしれません、今実施している多くの学校でもそれは同じ。効果を認識しているにもかかわらず、前向きな検討すらできないというのは残念なことだ。予防医療を徹底すれば医療費の削減にもつながる。子どもたちの将来の健康を考え、どうすれば実施することができるのか、もう一度検討していただきたいと要望した。